

男性のライフスタイルに関する意識調査

調査結果報告(ダイジェスト版)

千葉市男女共同参画センターでは、平成29年度事業として「男性のライフスタイルに関する意識調査」を実施しました。

男女共同参画社会を形成していくためには、男性の意識や働き方、家庭や地域に関する考え方は非常に重要です。また同時に、女性をもつ男性への意識や願望が、男性自身の意識や生き方に大きく影響を与えていると考えられます。

本調査は、男性のライフスタイルに関する意識や家庭、仕事、地域活動に対する考え方等について把握し、男女共同参画社会実現のための施策や事業に反映させることを目的とします。

調査対象	千葉市在住の20歳以上の3,000人(男女各1,500人)
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収方式
調査期間	平成29年8月29日～9月15日
回収状況	有効回答数:1,136件(有効回答率:37.9%)

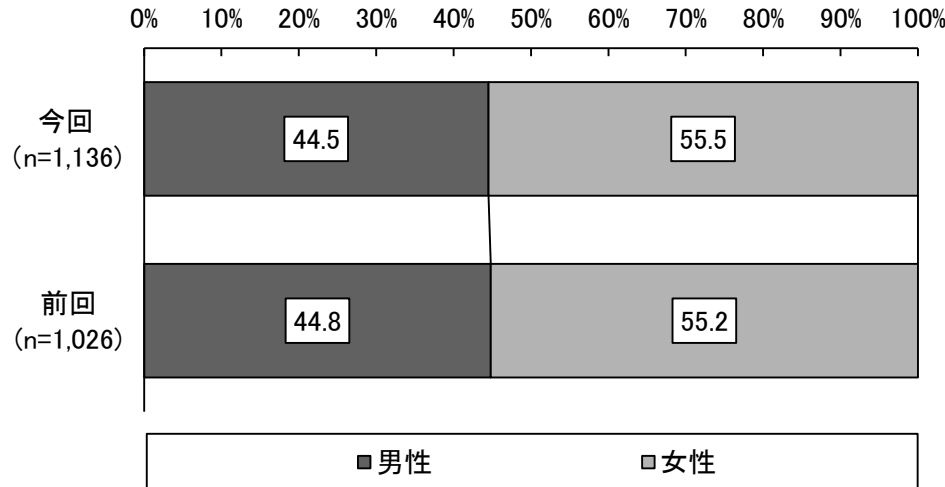
注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

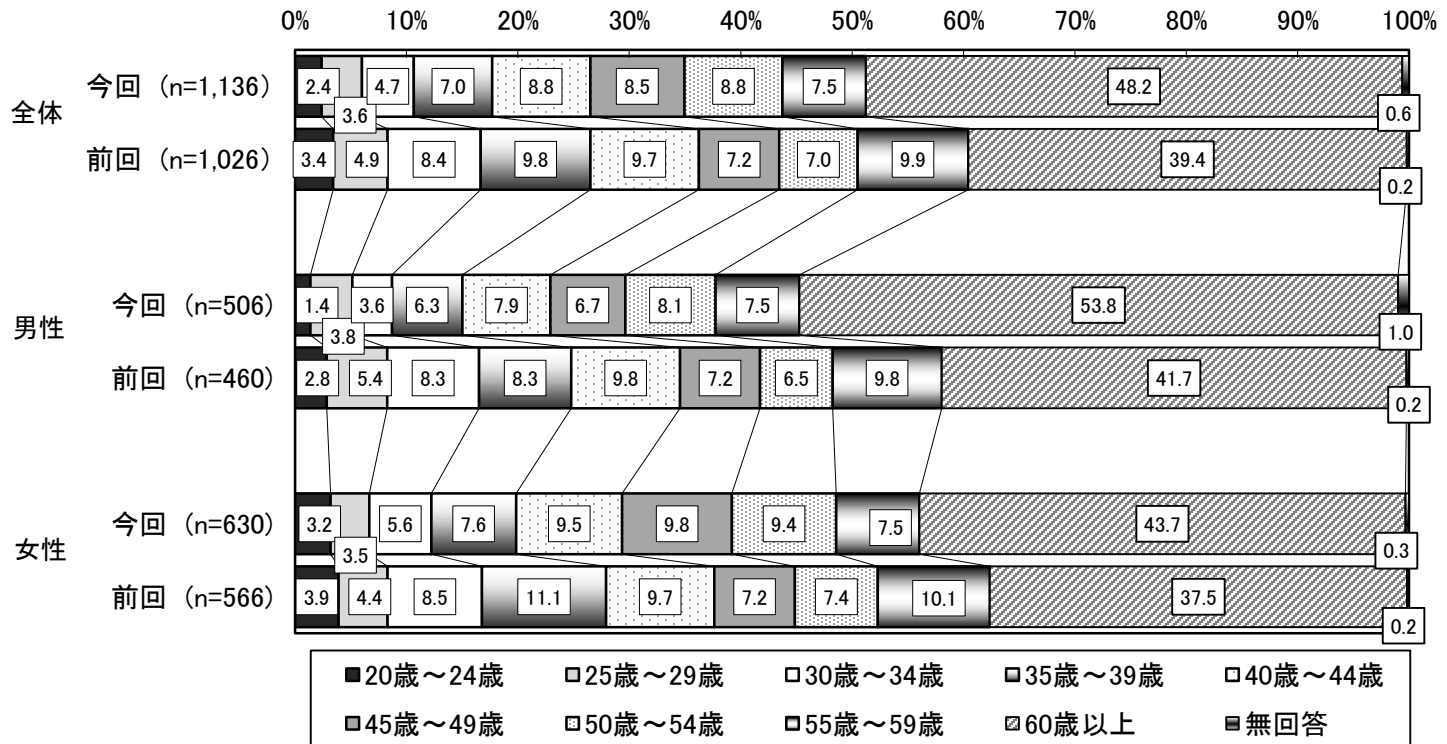
注3) 文中の前回調査とは、平成21年9月に実施した調査結果を指します。

回答者の属性(性別・年齢)

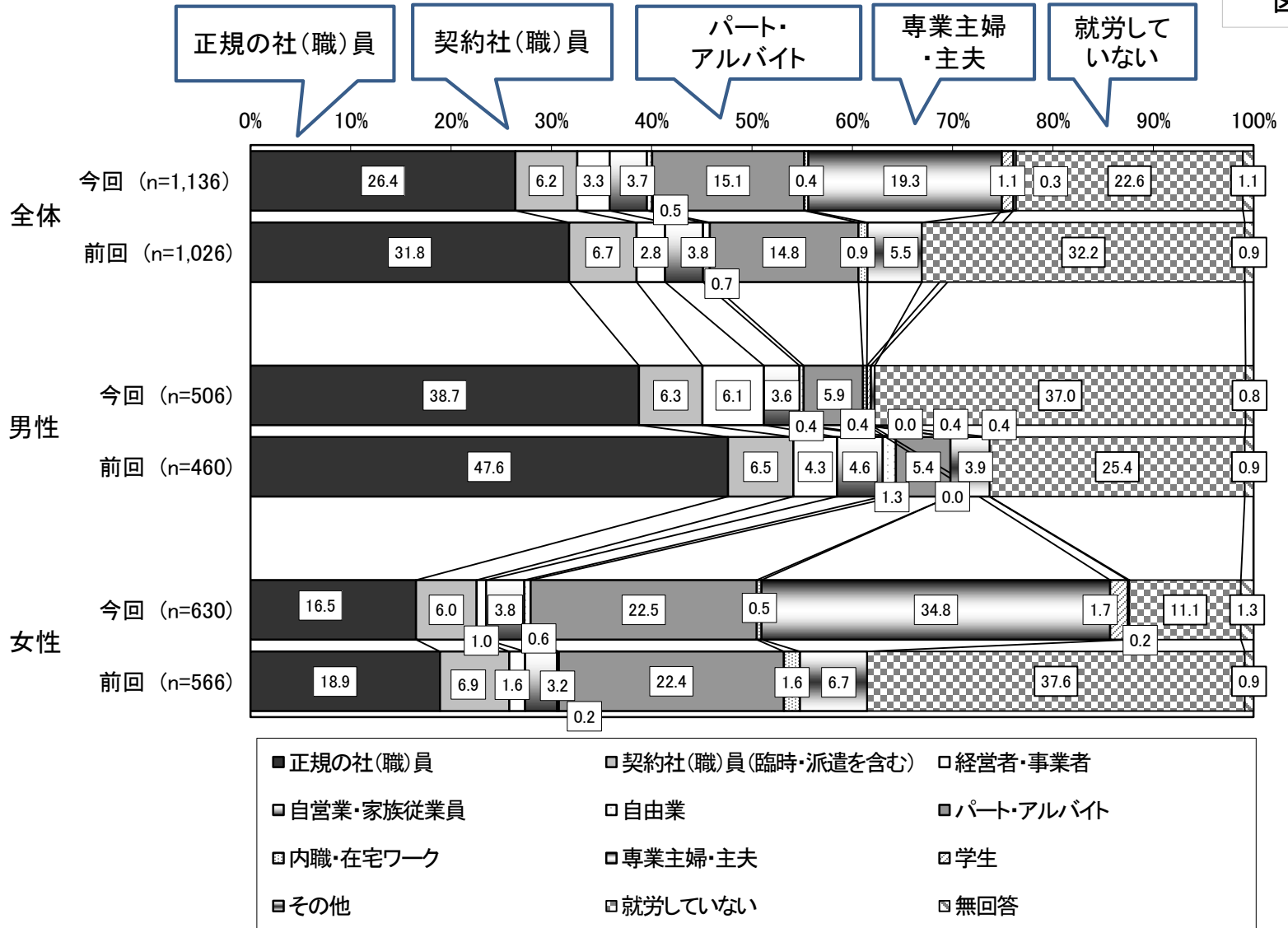
性別



年齢



回答者の属性(職業)

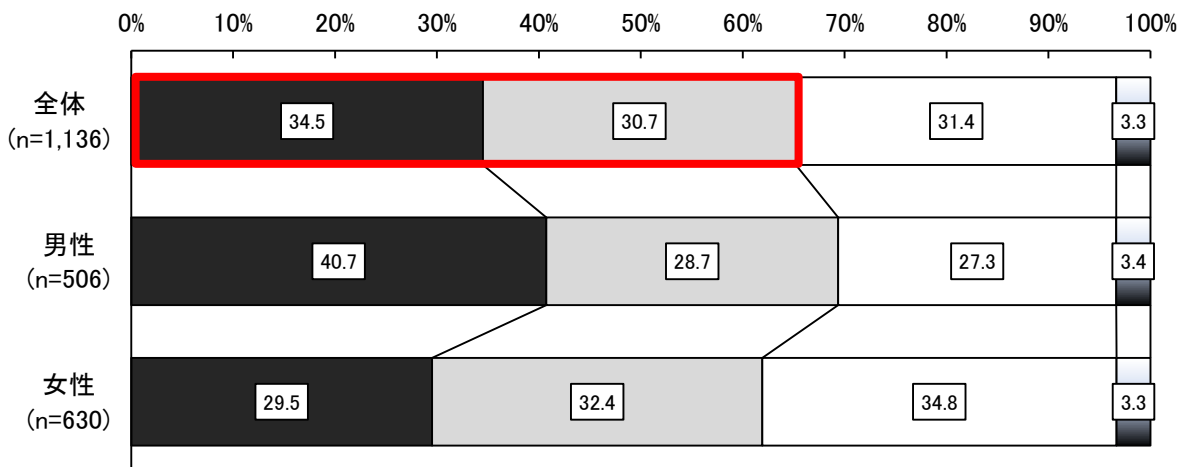
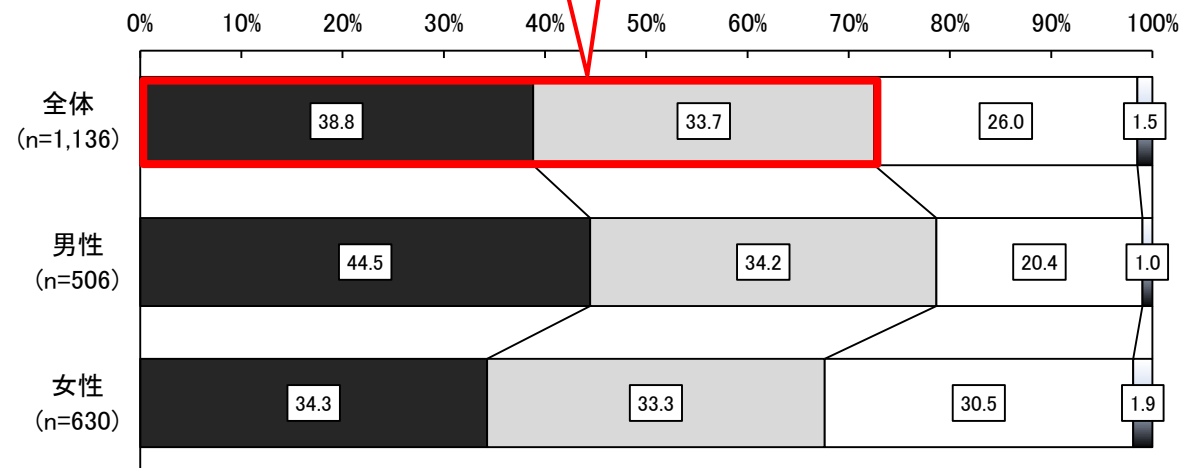


「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」という言葉の認知度 〈問1〉

全体では、“言葉を知っている(聞いたことがある)”と回答した人がそれぞれ72.5%、65.2%である。

“言葉を知っている(聞いたことがある)”

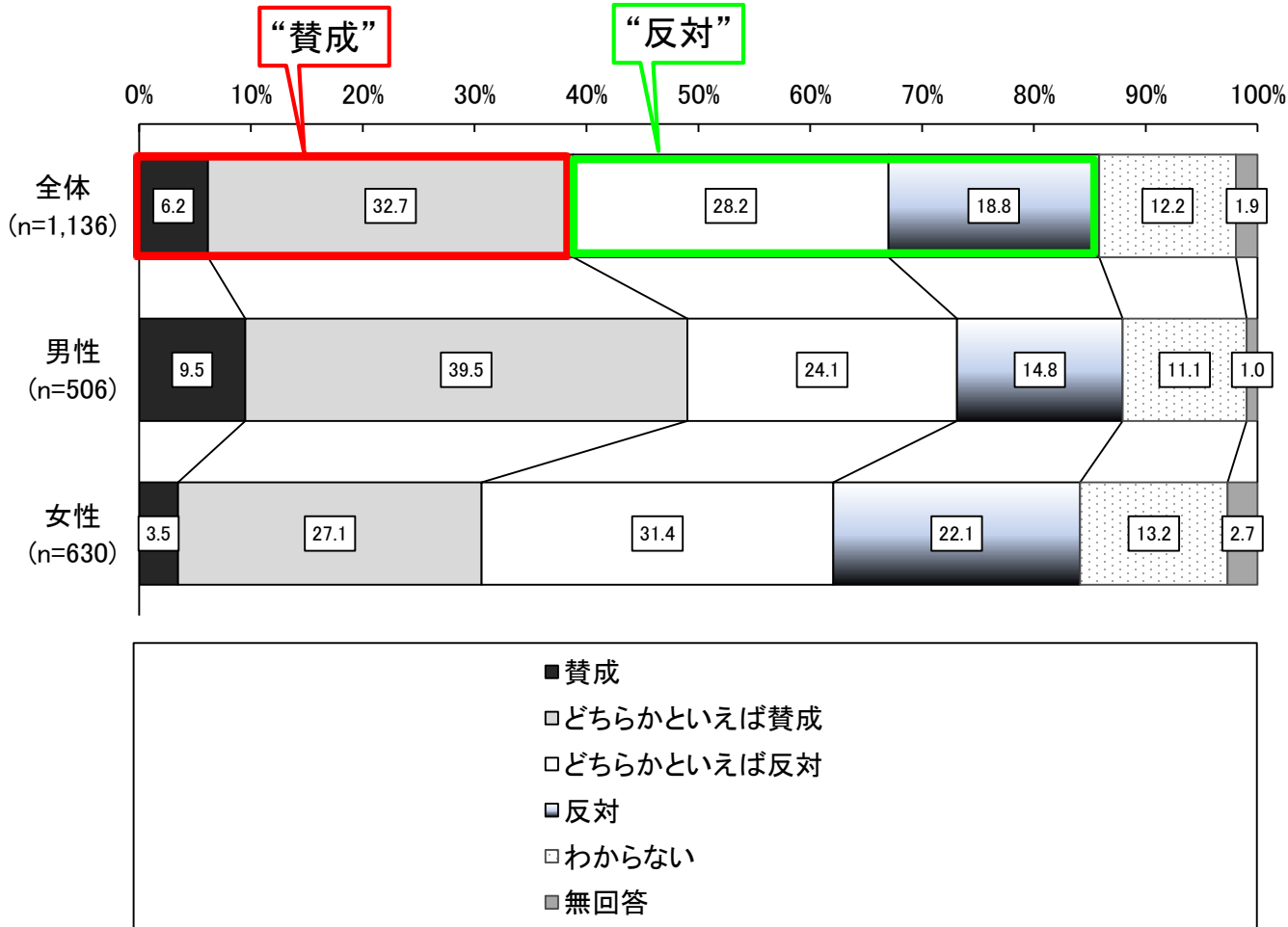
〱 男女共同参画社会
〱 ワーク・ライフ・バランス



「男性は仕事、女性は家事・育児」

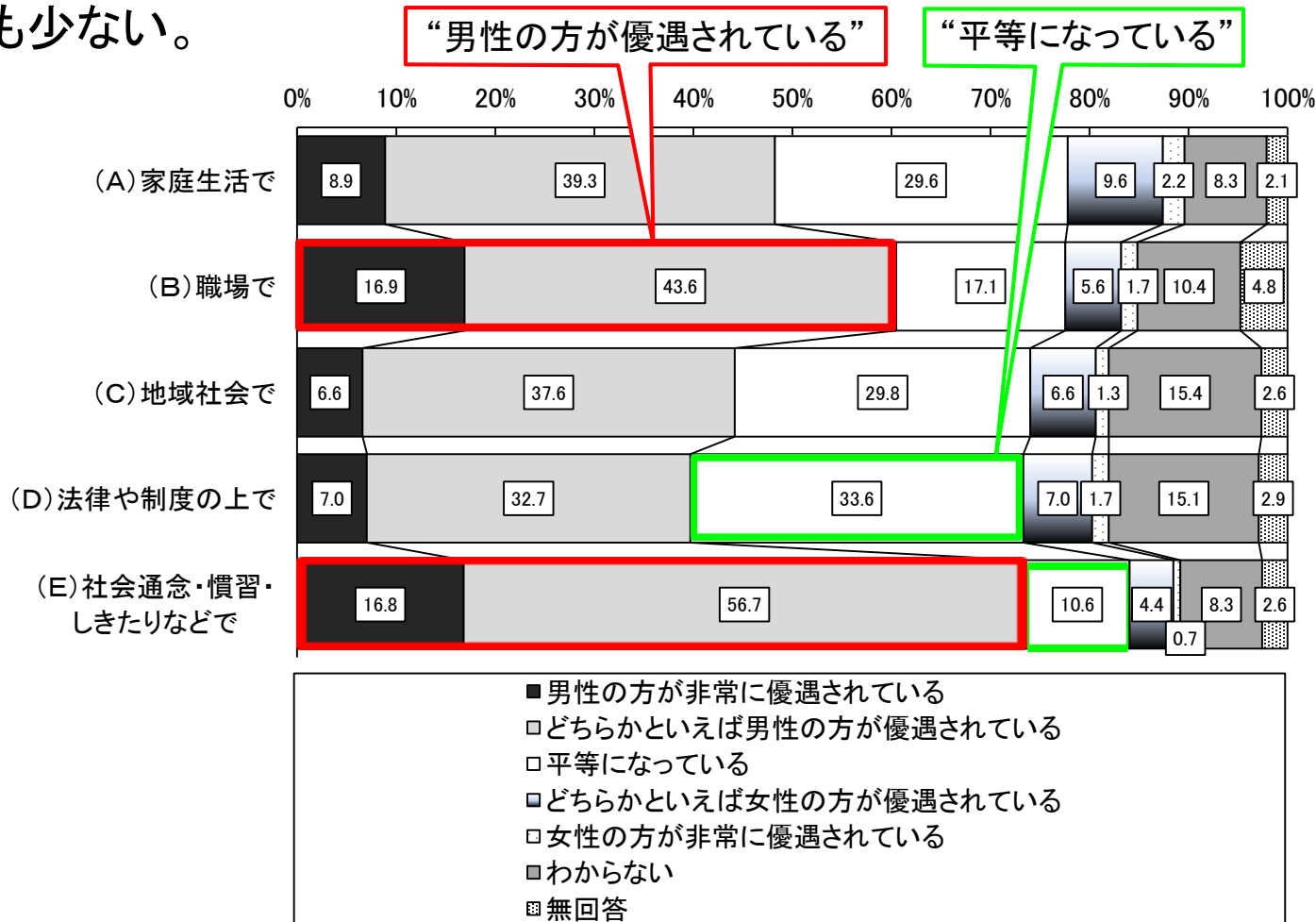
という考え方について 〈問2〉

性別役割分担意識について、全体では、“賛成”は38.8%、“反対”は47.0%で、“反対”が“賛成”より8.2ポイント高い。



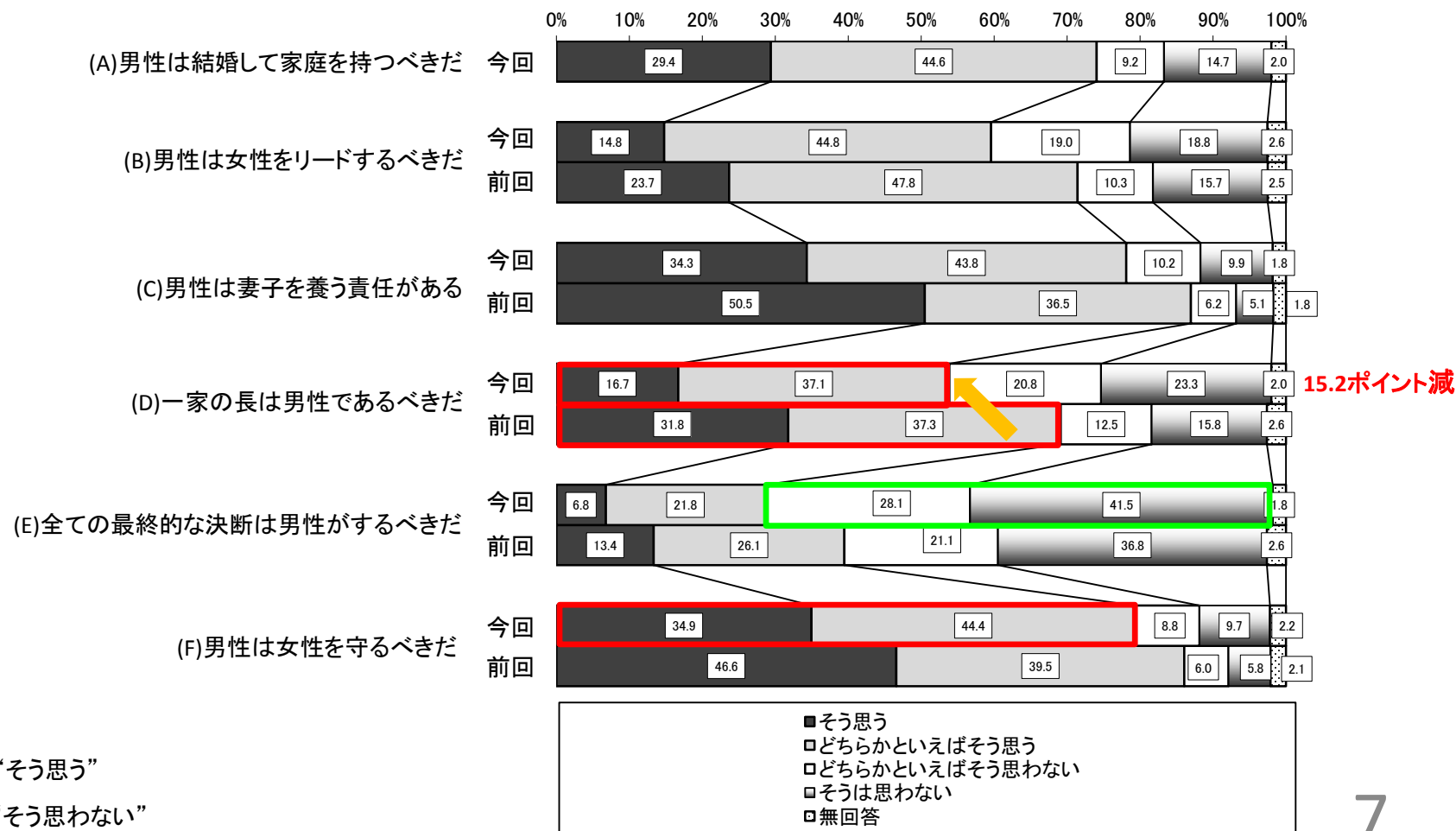
各分野の男女の地位 〈問3〉

“男性の方が優遇されている”は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が最も高く73.5%、次いで「職場で」が60.5%である。「平等になっている」は、「法律や制度の上で」が33.6%と最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が10.6%と最も少ない。



男性像について 〈問4〉

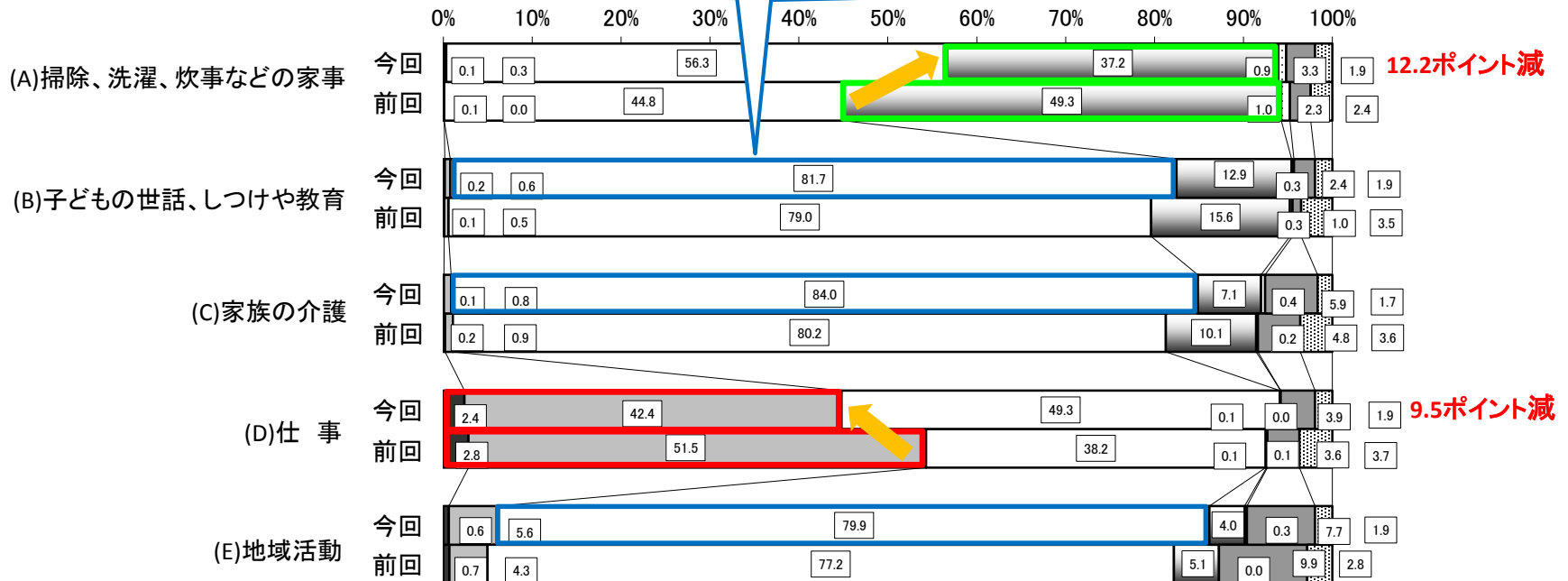
(A)～(F)の6つの男性像の中で、“そう思う”が最も高かったのは、「男性は女性を守るべきだ」の79.3%である。一方“そう思わない”が最も高かったのは、「全ての最終的な決断は男性がするべきだ」の69.5%である。前回調査と比較すると、(B)～(F)の項目で“そう思う”は減少しており、減少幅が最も大きいのは「一家の長は男性であるべきだ」で15.2ポイント減少している。



男女の関わり方について(希望) 〈問5(1)〉

すべての項目で「男女が同程度すべき」との回答が最も高い。特に、「家族の介護」が84.0%、「子どもの世話、しつけや教育」が81.7%、「地域活動」が79.9%である。前回調査と比較すると、「掃除、洗濯、炊事などの家事」は“女性がすべき”が12.2ポイント、「仕事」は“男性がすべき”が9.5ポイントそれぞれ減少している。

男女が同程度すべき



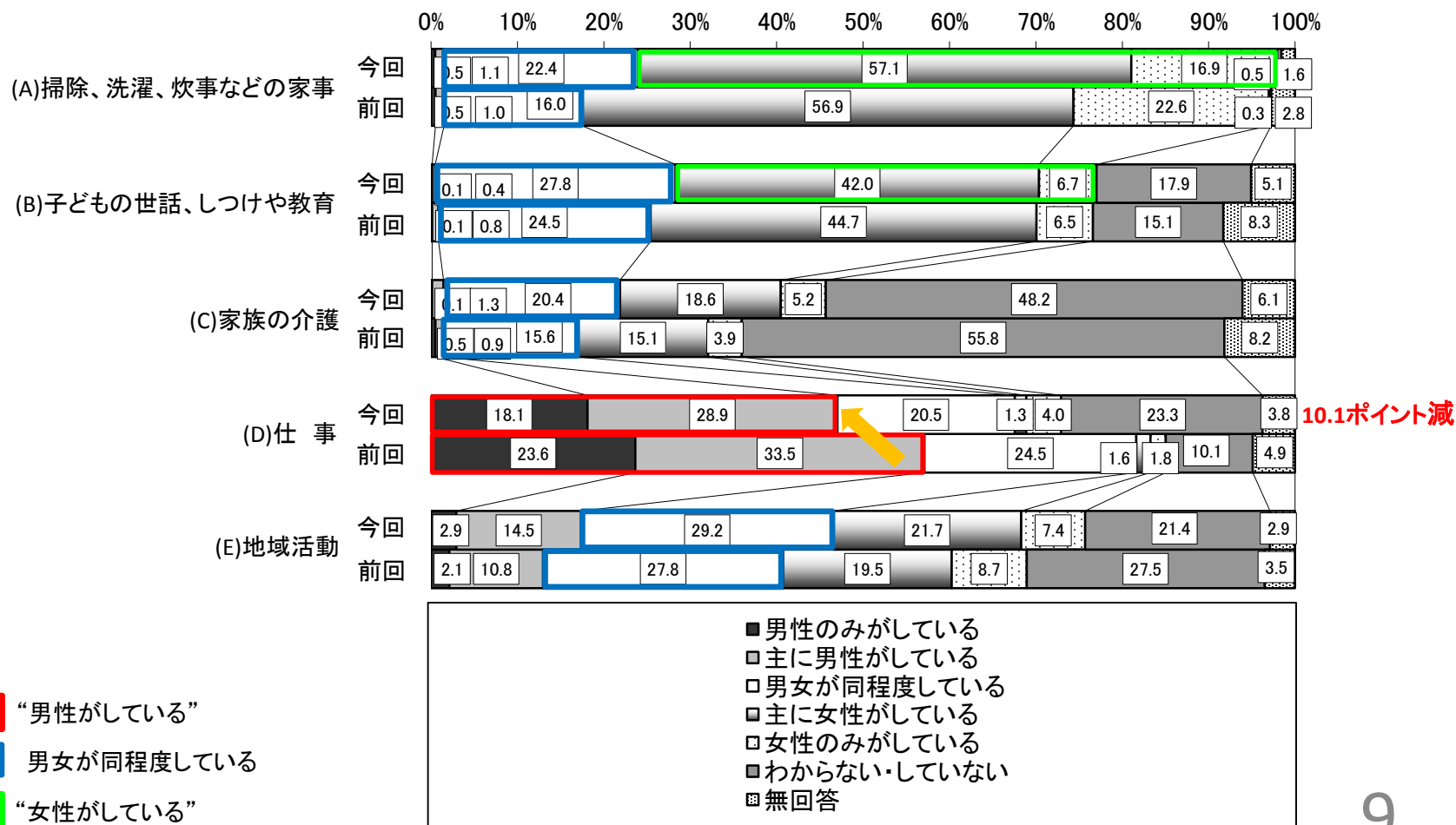
 “男性がすべき”
 男女が同程度すべき
 “女性がすべき”

■男性のみがすべき □主に男性がすべき
 □男女が同程度すべき □主に女性がすべき
 □女性のみがすべき □わからない
 □無回答

家庭、仕事、地域活動における

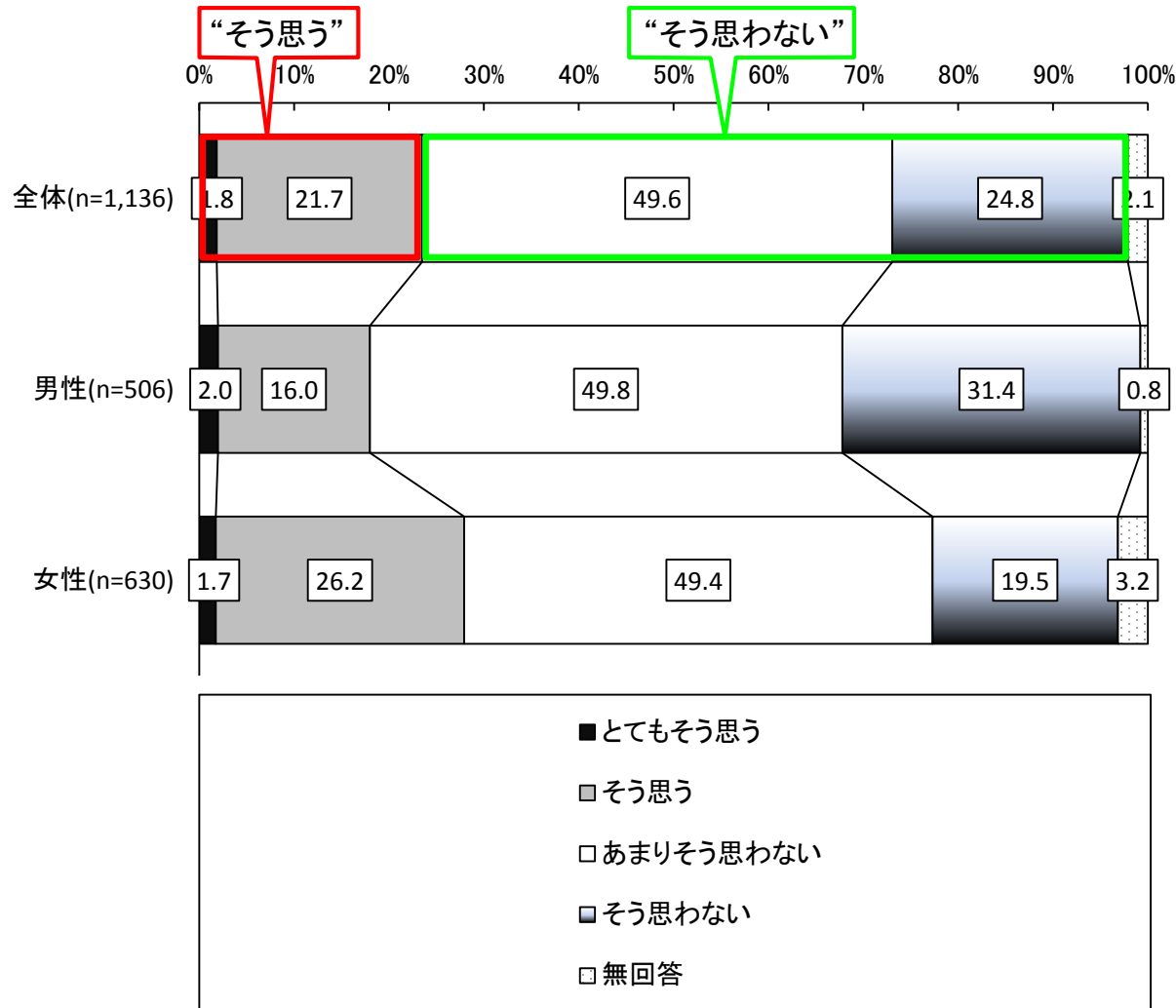
男女の関り方について(現状) 〈問5(2)〉

“女性がしている”は、「掃除、洗濯、炊事などの家事」で74.0%で、「子どもの世話、しつけや教育」で48.7%である。「仕事」は“男性がしている”が47.0%である。前回調査と比較すると、「仕事」は、“男性がしている”が10.1ポイント減少し、「仕事」以外の項目では「男女が同程度している」の割合が増加している。



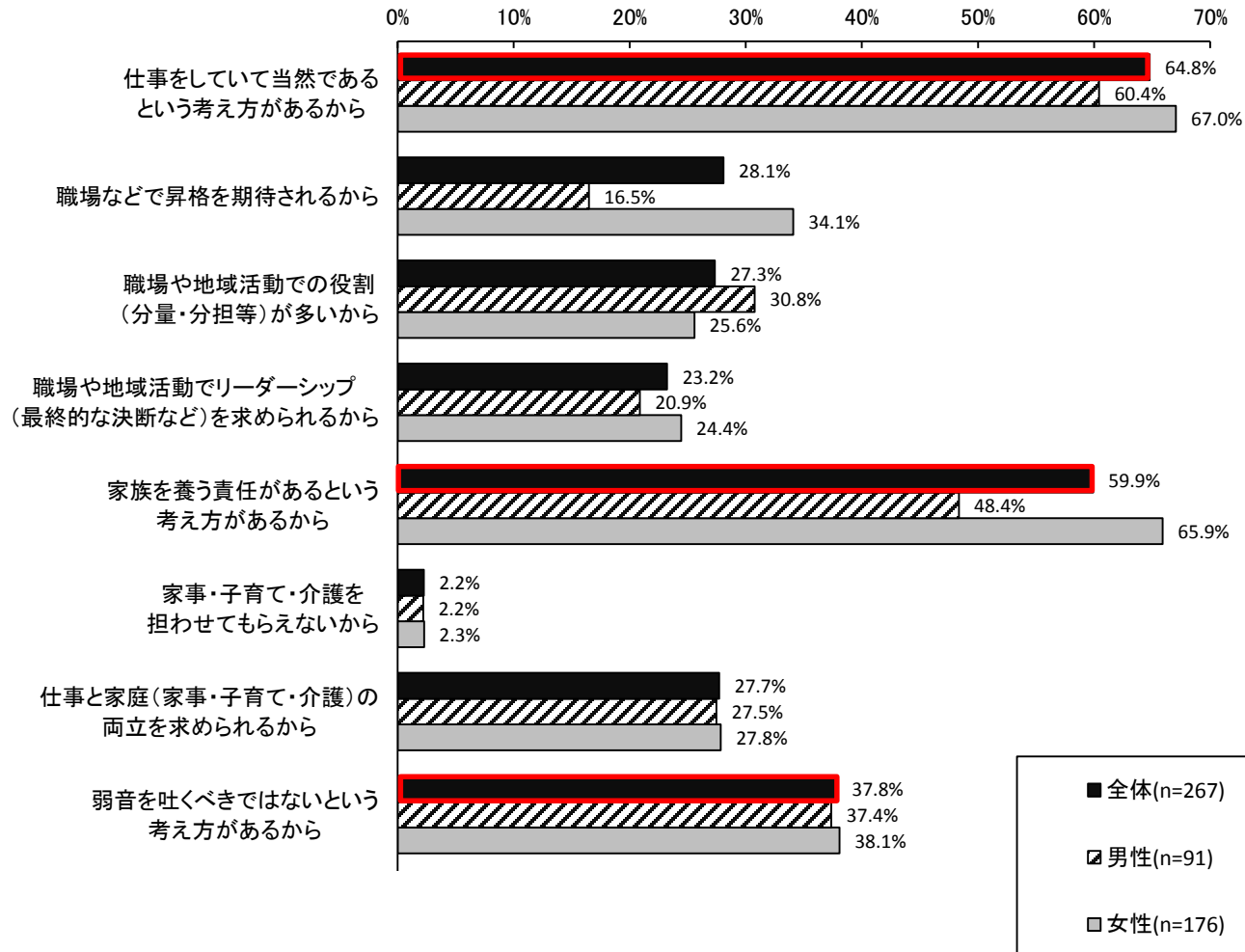
男性の生きづらさについて 〈問6(1)〉

普段の仕事や生活の中で「男性は生きづらい」と思うかについて、全体では“そう思う”が23.5%で、“そう思わない”が74.4%である。“そう思わない”の方が“そう思う”より50.9ポイント高い。



男性の生きづらさの要因 〈問6(2)〉

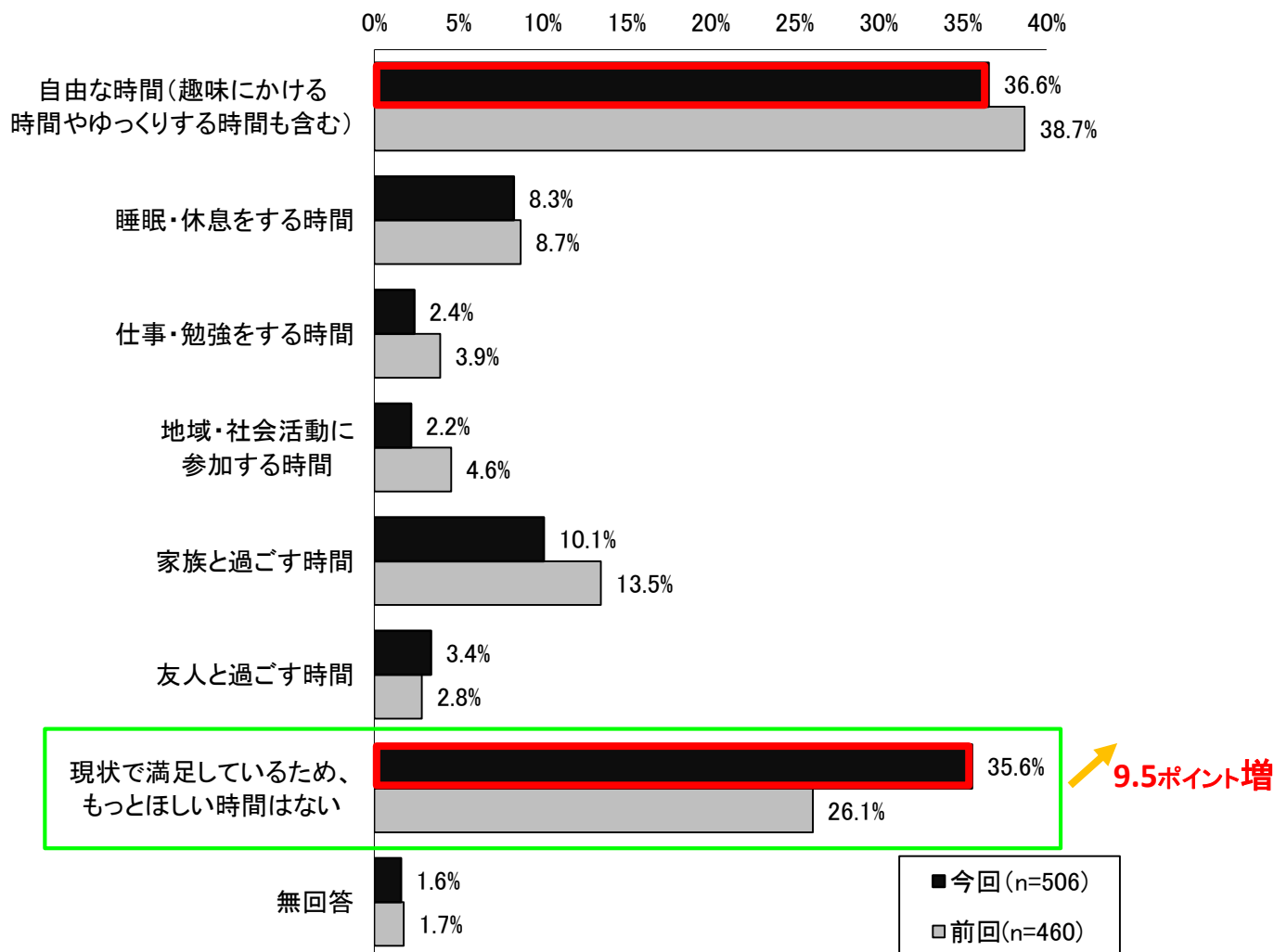
全体では、「仕事をしていて当然であるという考え方があるから」(64.8%)が最も高く、次いで「家族を養う責任があるという考え方があるから」(59.9%)、「弱音を吐くべきではないという考え方があるから」(37.8%)である。



男性が普段の生活のなかで

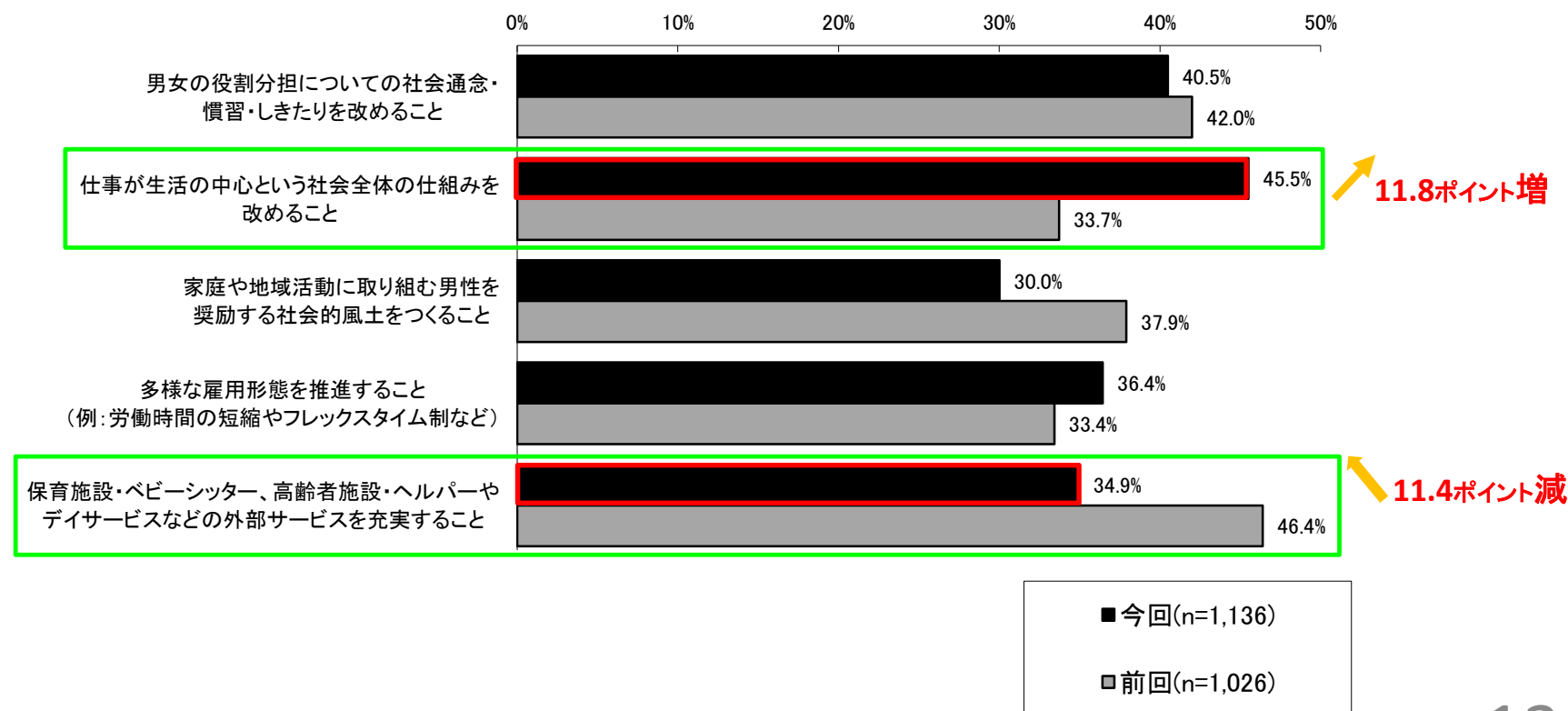
もっとほしいと感じている時間 〈問7〉

「自由な時間(趣味にかける時間やゆっくりする時間も含む)が36.6%と最も高い。前回調査と比べて「現状で満足しているため、もっとほしい時間はない」との回答が9.5ポイント増加している。



男性が家事、育児、介護、地域活動等に積極的に参画するために必要なこと 〈問14〉

「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が45.5%と最も高い。前回調査と比較すると、「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が11.8ポイント増加し、「保育施設・ベビーシッター、高齢者施設・ヘルパーやデイサービスなどの外部サービスを充実すること」が11.4ポイント減少している。



(1) 男女共同参画社会に関する意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、“賛成”が38.8%、“反対”が“賛成”を上回る結果となった。性別にみると、“賛成”は女性が30.6%、男性が49.0%と、働き手や稼ぎ手は男性で、女性は家庭を守るという固定的性別役割分担意識が男性により強く残っていることがわかった。「男だからこうあるべき、女だからこうあるべき」といった性別によって固定的に役割を決めつける意識の改革を図るため、広報・啓発が一層必要である。

また、「男女共同参画社会」、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉を知っている(聞いたことがある)と回答した人がそれぞれ72.5%、65.2%であることから、社会に浸透してきていることが伺える。

(2) 家庭、仕事、地域活動における男女の関わり方

全ての項目で、希望では男女が同程度すべきとの回答が多かったのに対し、現状では、「掃除、洗濯、炊事などの家事」(74.0%)や「子どもの世話、しつけや教育」(48.7%)などは“女性がしている”との回答が多く、「仕事」(47.0%)は“男性がしている”との回答が多かった。

家庭生活においては、男女が家事・育児等へ共同して参画することが大切であるが、家事・育児等に参画する男性の割合は依然として低い現状にある。男性の家庭生活への積極的な参画を促すとともに、仕事と生活の調和が実現できるよう、多様で柔軟な働き方を可能とする環境を整備していくことが必要である。

(3) 男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的に参画するために必要なこと

「仕事が生活の中心という社会全体の仕組みを改めること」が45.5%と最も割合が高い。20～40代の男性の自由意見にも「長時間勤務を強いられ、家庭での時間を持つことが難しい」や「土日仕事を持ち帰り、常に仕事に追われている」等の声があるように、仕事が生活の中心となり、家庭生活や地域活動に参画する時間が確保できない状況であることが伺える。

このことから、個々のライフスタイルや諸事情に応じた休暇を取得しやすい職場の雰囲気づくりや、長時間労働の抑制等働き方の見直しにより、男性の家庭生活や地域活動に参画しやすい環境を整備することが必要である。

発行年月：平成29年3月

発行者：千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
千葉市男女共同参画センター 電話043-209-8771